

放射線治療科

金城 彰汰 医師

放射線治療の最前線で、
患者さまに誠実に寄り添いたい

今年4月から当院の放射線治療科に勤務している金城彰汰医師。これまでのキャリアや仕事に対する思い、今後の目標などについて話を伺いました。

——これまでの経歴を教えてください。

琉球大学医学部を卒業し、大浜第一病院で初期臨床研修を行った後、琉球大病院の放射線治療科で働いていました。琉大病院では、当時県内で唯一、子宮頸がんの治療にかかせない放射線治療システム「ラルス（RALS）」による小線源治療が行われており、僕も子宮頸がんを発症した患者さまの治療に多く携わってきました。

放射線治療にもさまざまな治療法がありますが、ラルスは、体の内側から放射線を照射する内部照射の一つで、手技的要素が伴うのが特徴です。婦人科検診のように膣内部に膣鏡を入れて専用の器具を子宮内部へ挿入し、子宮内から放射線を当ててがん細胞を攻撃します。患者さまが鎮静剤で眠っている1時間半の間に、全ての処置を行うため、正確かつスピーディーな手技を心がけ、治療後の経過観察を丁寧に行うことを意識していました。琉大病院ではその経験

を積むことができました。

——医師を志したきっかけは？

あまりかっこいい理由はなく、理数系が得意だから医学部へ進みました。もともと高校時代は理工学部の大学を目指していました。高校2年の時、大学や研究機関と連携して理数系の研究を行うスーパーサイエンスハイスクールという取り組みがあり、僕は化学や物理の分野を学んでいたのですがあまり前のめりに楽しめなくて、なんとなく自分の進む分野ではない気がしたんです。それから進路を考え直す中で、同級生に医師を目指す人が多かったことや、日々人と触れ合う医師の仕事はやりがいを持って働ける気がして、医学部もいいかなと思ったんです。

ところが、実際に医学部に入ったものの、生物の分野はあまり好きになれませんでした。その後、4〜5年次に病院実習で各科を見学した際、放射線治療科に出会いました。医師がパソコンの前でCTやMRI画像を確認して病気の状態を評価したり、照射する放射線量を計算して治療計画を立てたりする様子を目の当たりにし、こんな業務もあるのかと驚きました。患者さまを助けるためにより効果的で安全に病巣へ



金城医師のパーソナルな一面を聞いてみました!!

● 地元の魅力

名護市の実家近くにある羽地内海は穏やかでとても静かな環境が魅力。夏は窓を開けるだけで涼しいんです



● 最近ハマっていること

人生何度目かのダイエットにトライ中。週2回のジム通いでリフレッシュしています

● ストレス解消法

深夜に放送される海外サッカーの観戦。アーセナルFC推しです

● お気に入りの1曲

去年一番聞いたのは、井上陽水「帰れない二人」。仕事帰りの車内でよく熱唱していました

● 今一番欲しいもの

とあるお店で一目惚れした腕時計。以前当院に勤めていた橋本成司先生が試験に受かった時のご褒美に時計を買ったと言っていたのに影響され、僕も放射線治療専門医資格を取得したら自分へのお祝いに時計を買ってみたいです!



放射線治療科
金城 彰汰 医師

《プロフィール》

沖縄県出身。琉球大学医学部を卒業後、大浜第一病院にて初期臨床研修修了。琉球大学病院放射線科に入局、放射線治療に従事。今年4月より当院放射線治療科に入職。放射線科専門医。日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会所属。

照射できるよう作戦を立てて実行するという仕事はカッコいいなと思っただけです。

—— 医師として働く中で、やりがいに感じることはありますか？

放射線治療の中でも、病気による緩和ケアを目的として、がんの骨転移によって起こる痛みや苦痛を放射線治療で取り除き、患者さまに喜んでもらえた時は嬉しいですね。以前、80代の女性の患者さまで、足のくるぶしにがんが転移してパンパンに腫れている方がいました。痛みで歩ける状態ではなく最初は車椅子で来院されていました。1度照射して1ヶ月間様子を見ましたが、痛みが

治らないとのこと、2度目の照射。その1ヶ月後、自分の足で歩いて来院されたんです。痛みが治まったことで表情もバツと明るくなり、元気にされている様子を見て嬉しかったですし、この仕事をやっていてよかったと思いましたね。

—— 医療現場で働く上で大切にしていることや、目指している医師像は？

当たり前のことですが、患者さまや治療に対して、素直に、誠実に向き合うことを大切にしています。治療の内容は複雑ですし、放射線治療と聞くと、恐怖を感じる患者さまや、これまでにさまざまな治療を繰

り返したことで気持ちが落ち込んでいた方もいらっしゃいます。不安な気持ちを増幅させないよう、患者さまやご家族に寄り添う姿勢で、治療の安全性や、得られる効果、デメリットなどを過不足なくお伝えすることが大事だと思います。

また、放射線科医として今の僕があるのは前職の上司であり、新人医師だった頃から、放射線治療について丁寧に教えてくださった有賀先生のおかげです。先生にはよく、「すべきことを教えてくれるのは、目の前の患者さまだよ」と言われたことが心に残っています。放射線量による身体への影響や副作用の発生確率など、多くのことは論文に記されていますが、患者さま全てに当てはまる

訳ではありません。だからこそ目の前の患者さまをしっかり診察することを大事にしていきたいです。

—— 今後の意気込みや目標をお聞かせください。

当院に入職してまだ日は浅いですが、放射線治療科は身体全体を診ることが大前提なので、幅広い知識が必要とされます。大変さもありますが、その分やりがいがある仕事です。今後は、放射線治療専門医取得を目指して頑張ることはもちろん、当院の強みであるサイバーナイフやトモセラピーによる前立腺がん治療の技術を磨き、患者さまの治療に貢献していきたいと思っています。